

令和7年度



しもよねだ

第2号

令和7年5月30日（金）

人と関わり合う中で学ぶ

校長 安藤 由美子

新しい学年にも慣れてきた頃、子ども同士の小さなもめごとが増えます。子ども達だけでは解決できず、職員が指導や助言を行う場面もよく見かけます。

もめごとがなければ、誰もが毎日気持ちよく過ごせるのですが、そういうわけにはいきません。一人一人、育ってきた環境も考え方も違う人間が集団で生活するのですから、意見が食い違うのは、ある意味当然のことです。ましてや彼らは、成長半ばの、人との関わり方も未熟な“子ども”なのですから。

もめごとは必ず起こりますが、それが子ども達にとって必ずしもマイナス要素になるというわけではありません。むしろ、プラスに働く場合の方が多いたと言えます。「こういう人にはこういう言い方をすれば伝わるんだ。」とか、「こういう場合はこうすればわかってくれるんだ。」とか、人との関わり方は多くのもめごとを経験する中でしか学べないと感じるからです。

自分と異なる考え方の人がいれば、そこから新たな発想を学び、見方や考え方を広げることができます。同じ考えの人ばかりだと共感や安心は得られるでしょうが、自分にはないものを学ぶ機会は少なくなります。

多様性という言葉をよく耳にしますが、それは誰もが経験する毎日の生活の中で、人が生きていく力を付ける貴重な機会を生み出す源になっていると感じます。

小学生のうちにもめごとを体験し、そこから人との関わり方を学ぶとともに、自分で乗り越える力を付けてくれることを期待して、職員は今日も“もめごと”の指導に向かいます。



教えて教えて！
あなたはこう考えているの？